

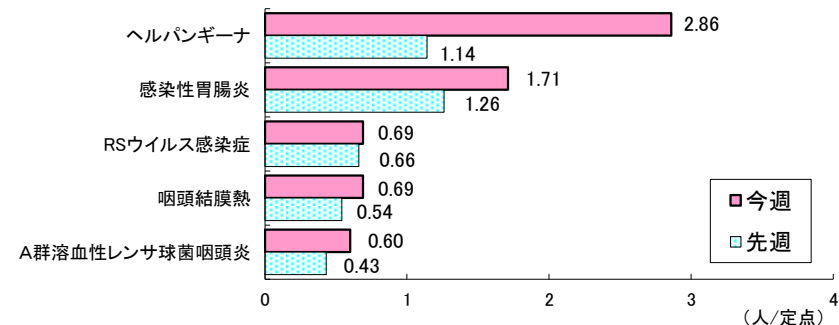


【第30週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

- ヘルパンギーナは、県全体で2.5倍に増加しています。保健所別では、秋田市、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、横手、湯沢で増加、北秋田で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で36%増加しています。保健所別では、秋田市、大館、能代、由利本荘、湯沢で増加、秋田中央で同規模、北秋田、大仙、横手で減少しています。
- RSウイルス感染症は、県全体で5%増加しています。保健所別では、秋田市、大館、横手で増加、秋田中央、由利本荘、湯沢で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減			
RSウイルス感染症	0.66	0.69	↗	0.86	1.57	↗		0.25	↗						2.25	1.00	↘	1.75	1.00	↘					1.33	↗	0.25		↘	
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.54	0.69	↗	1.14	1.00	↘	2.00	3.50	↗									0.25		↘		0.50	↗			0.50	0.25	↘		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.43	0.60	↗	0.57	1.00	↗								0.67	↗	1.25	0.50	↘	0.25		↘		0.25	↗	0.67	1.00	↗	0.75	1.50	↗
感染性胃腸炎	1.26	1.71	↗	2.14	2.43	↗	0.50	1.50	↗	1.00		↘	2.67	4.33	↗	2.00	2.00		0.25	1.50	↗	0.25		↘	2.00	1.67	↘	0.25	1.25	↗
水痘	0.37	0.14	↘	0.57	0.29	↘									1.00	0.50	↘									1.25	0.25	↘		
手足口病	0.14	0.11	↘	0.14		↘							0.33		↘					0.25	↗	0.25	0.75	↗		0.50		↘		
伝染性紅斑		0.03	↗		0.14	↗																								
突発性発しん	0.09	0.26	↗	0.14	0.57	↗				0.50	1.00	↗			0.25	0.25			0.25	↗						0.33	↗			
ヘルパンギーナ	1.14	2.86	↗	0.71	1.57	↗				0.50		↘		0.67	↗	0.50	1.50	↗	2.50	6.75	↗	2.50	8.50	↗	4.00	6.00	↗		0.50	↗
流行性耳下腺炎	0.14	0.09	↘		0.29	↗		0.25	↗				0.33		↘							0.75		↘		0.25		↘		
川崎病																														
急性出血性結膜炎									*	*			*	*	*	*										*	*			
流行性角結膜炎	0.14	0.43	↗	0.33	1.00	↗				*	*		*	*	*	*										*	*			
細菌性髄膜炎															*	*														
無菌性髄膜炎															*	*														
マイコプラズマ肺炎	1.75	1.50	↘		1.00	↗				3.00	3.00		3.00	3.00	*	*		1.00	1.00		3.00		↘	1.00	3.00	↗	3.00	1.00	↘	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)															*	*														

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>  
・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、大館保健所管内から3人、由利本荘保健所管内から1人、報告されました。  
・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田中央保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、報告されました。  
・四類感染症のE型肝炎が秋田市保健所管内から1人、報告されました。  
・五類感染症の侵袭性肺炎球菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患> (人)

類型	疾患名	1週-29週		30週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ベスト			
	マールブルグ病			
二類	ラッサ熱			
	急性灰白髄炎			
	結核	11728	62	5
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
三類	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
	コレラ	2		
	細菌性赤痢	96		
	腸管出血性大腸菌感染症	1317	12	2
	腸チフス	18		
四類	バラチフス	12		
	E型肝炎	241		1
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	568		
	エキノкокクス症	7		
	黄熱			
	オウム病	5		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	2		
	キャサナル森林病			
	Q熱	1		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	48		
	腎症候性出血熱			
西部ウマ脳炎				
ダニ媒介脳炎	1			
炭疽				

類型	疾患名	1週-29週		30週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	1		
	つつが虫病	93	2	
	デング熱	71		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	107		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	フルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	1		
	マラリア	23		
	野兔病			
	ライム病	2		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
五類	類鼻疽	1		
	レジオネラ症	1040	2	
	レプトスピラ症	2		
	ロッキー山紅斑熱			
	アメーバ赤痢	465		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	126	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	946	5	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	16		
	急性脳炎	415	5	
	クリプトスポリジウム症	11		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	117	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	421	5	
	後天性免疫不全症候群	691		
	ジアルジア症	40		
	侵袭性インフルエンザ菌感染症	277	1	
	侵袭性髄膜炎菌感染症	25		
	侵袭性肺炎球菌感染症	2103	11	1
	水痘(入院例に限る)	233	5	
	先天性風しん症候群			
	梅毒	3686	7	
播種性クリプトкокクス症	99			
破傷風	57			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	31			
百日咳	3542	20		
風しん	58			
麻しん	197			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	9			

トピックス

<腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう>

5月以降、県内では腸管出血性大腸菌感染症の発生がみられており、7月には11件が相次いで報告されています(図)。例年、8月から9月にかけて報告数がピークとなります。

■腸管出血性大腸菌とは

ベロ毒素と呼ばれる毒素を出す大腸菌です。4～8日の潜伏期間の後、腹痛、下痢に続いて血便(出血性大腸炎)を発症することがあります。患者の一部では腎不全を伴う溶血性尿毒症症候群や脳症といった重い合併症を併発する場合があります。特に、小児や高齢者は重症化のリスクが高いとされています。

■感染経路

腸管出血性大腸菌は、牛などの反すう動物の腸管内に常在しています。そのため、保菌動物の飼育環境にある水・土壌による汚染、と畜処理過程の汚染の可能性等があり、様々な飲食物が感染源となる危険性があります。農場やと畜場では様々な対策を行っていますが、汚染のリスクを完全になくすることはできません。

<予防のポイント>

- トイレの後、動物に触れた後、食品を扱う際は、石けんを使ってよく手を洗いましょう。
- 食品を取り扱う際は、次のことを注意しましょう。
  - ・75℃1分以上を目安とした十分な加熱をする。
  - ・調理器具(まな板、包丁、ふきん、さいばし、スポンジなど)をよく洗う。
  - ・調理後、早めに食べる。

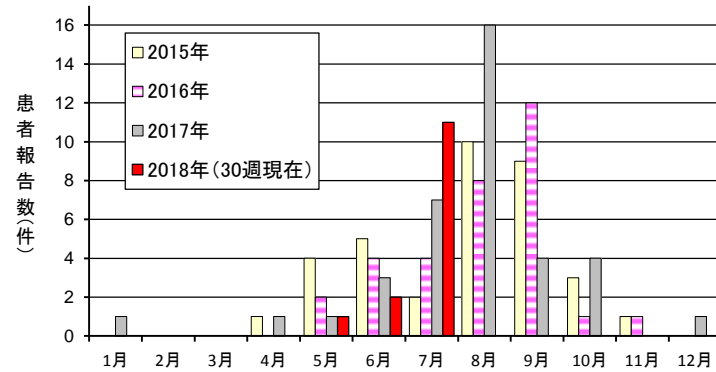


図 秋田県における腸管出血性大腸菌感染症の報告数(2018年第30週現在)



感染症の集団発生報告

ヘルパンギーナによる集団発生報告が5件ありました。

発生届出日 平成30年7月24日  
受付保健所 大仙保健所  
施設名称 大曲乳児保育園  
有症者数 園児69名のうち16名  
把握期間 7月17日から7月24日まで

発生届出日 平成30年7月25日  
受付保健所 大仙保健所  
施設名称 協和まほろばこども園  
有症者数 園児118名のうち14名  
把握期間 7月20日から7月25日まで

発生届出日 平成30年7月26日  
受付保健所 横手保健所  
施設名称 沼館保育園  
有症者数 園児135名のうち10名  
把握期間 7月23日から7月26日まで

発生届出日 平成30年7月30日  
受付保健所 横手保健所  
施設名称 和光保育園  
有症者数 園児72名のうち11名  
把握期間 7月24日から7月30日まで

発生届出日 平成30年7月31日  
受付保健所 横手保健所  
施設名称 吉田保育所  
有症者数 園児101名のうち12名  
把握期間 7月30日から7月31日まで

アデノウイルス感染症による集団発生報告が2件ありました。

発生届出日 平成30年7月25日  
受付保健所 大館保健所  
施設名称 大館八幡こども園  
有症者数 園児168名のうち12名  
把握期間 7月19日から7月25日まで  
検査状況 6名からアデノウイルスを検出

発生届出日 平成30年7月27日  
受付保健所 大館保健所  
施設名称 大館ホテヤ第二こども園  
有症者数 園児45名のうち18名  
把握期間 7月2日から7月27日まで  
検査状況 17名からアデノウイルスを検出



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
咽頭結膜熱	-	大館(3.50)
ヘルパンギーナ	-	由利本荘(6.75)、大仙(8.50)、横手(6.00)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			警報			
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)	対象疾患	注意報	警報	
					基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	4	7	4	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		